

りそな 経済フラッシュ

(米国FOMC)

◎注意事項をよくお読み下さい



○概況

- ◆ 政策金利の誘導水準を2会合連続で0.25%引き下げ
- ◆ ドットチャートは市場予想よりタカ派的な内容となった
- ◆ パウエルFRB議長は今回の利下げはあくまでも「予防的」としつつも、先行きの利下げの可能性を残した

✓ FRBは9/17-18に行われたFOMC（連邦公開市場委員会）にて、**政策金利を2会合連続で0.25%引き下げ、1.75～2.00%とした。**

✓ 声明文では、「**輸出が減速している**」との文言を追加、引き続き「不確実性の高まり」に対して「適切に行動」するとの文言は据え置かれ、**今後の利下げの可能性を残した。**

✓ FOMC参加者によるFFレート見通し（ドットチャート）では、**年内の追加利下げについて委員17名（投票権を持たない委員含む）のうち、7名が0.25%の利下げを支持。中央値では年内は据え置きとなった。**長期見通し(Longer run)については中央値は2.5%で6月から変わらずとなった。同時に公表されたFOMC参加者の米経済見通しでは、2019年の成長率及び失業率を小幅に引き上げた。

✓ 今回の利下げに対して10人中賛成が7人、反対が3人（今会合での政策金利据え置きが2人、0.5%の利下げが1人）であり、**満場一致とはならなかった。**

✓ パウエルFRB議長は記者会見で今回の利下げについてはあくまでも予防的なものとしつつも、「**景気が悪化すればさらなる利下げが適切となる可能性**」と述べ、先行きの利下げにも含みを残した。ドットチャートの中央値が年内の利下げを示唆しなかったことで**FRBが想定よりタカ派的**と受け止められ、株の初期反応は失望的となったが、パウエル議長の会見を受け、買い戻された。

【FOMC参加者の見通し（9月時点）】

	FRB見通し（中央値）				
	2019	2020	2021	2022	長期
実質GDP	2.2↑	2.0	1.9	1.8	1.9
6月時点	2.1	2.0	1.8	-	1.9
失業率	3.7↑	3.7	3.8	3.9	4.2
6月時点	3.6	3.7	3.8	-	4.2
PCEインフレ率	1.5	1.9	2.0	2.0	2.0
6月時点	1.5	1.9	2.0	-	2.0

【FFレート見通し内訳-FOMC参加者の人数】

	今後の利上げ回数	2019		2020		2021		2022	Longer run	
		6月	9月	6月	9月	6月	9月	9月	6月	9月
3.500										
3.375	6回									
3.250									2	1
3.125	5回			1		1			2	1
3.000										
2.875	4回					1		2	3	3
2.750										
2.625	3回	1		2		3	1	2		
2.500									8	8
2.375	2回	8		5	1	5	5	5	1	1
2.250										1
2.125	1回	1	5	2	6	2	4	4		
2.000										1
1.875	現在	7	5	7	2	5	3	3		
1.750										
1.625	▲1回		7		8		4	1		
1.500										
平均値		2.169	1.846	2.213	1.875	2.316	2.066	2.272	2.695	2.570
中央値		2.375	1.875	2.125	1.875	2.375	2.125	2.375	2.500	2.500

今回FOMCで提示された中央値の利上げベース 中央値 【出所】FRB